

こえ 声 こえ

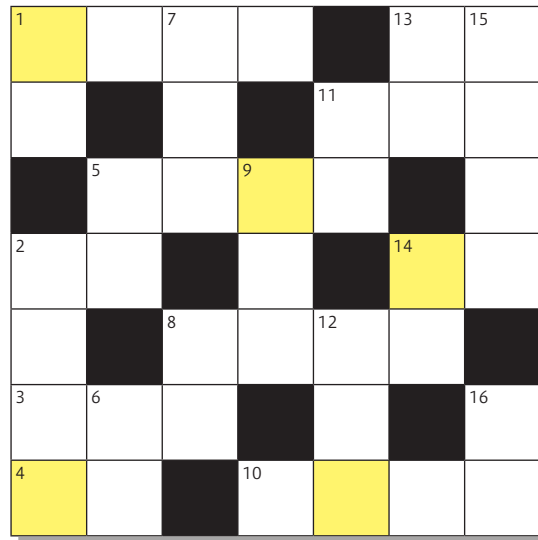
「ふれあい」第83号をお読みにになった読者の方より、多数のおたよりが寄せられました。ありがとうございます。紙面の都合上、その中のいくつかを紹介します。これからもみなさんの「声」をお届けいただけると幸いです。

◆人権コラムの怒りの対処法を興味深く拝見しました。怒りのコントロールは普段から意識していても難しいものがあり、講習会等で詳しく学べる機会があると嬉しいです。(M.Yさん)

◆町民人権講座の開催時刻を昼間にしていただいて、参加しやすくなりました。年齢的に夜間は出にくくなってきましたので、うれしいです。(M.Jさん)

◆ウスビ・サコさんの人権講座、以前の実施日なら参加できたのですが、今回は仕事の都合で参加できませんでした。でも、この記事で大体のことが伝わりました。特に「多様性の尊重」の深さ、大切さを改めて考えさせられました。(T.Jさん)

◆クロスワードは私にとって非常に楽しかぎりです。ぼけ防止として、頭を使ったり、調べたりという勉強になります。今回も夢中で、たてよこ質問に辞書を使って調べ、新しい発見がありました。私にとってありがたく、いつも勉強させていただいております。(T.Yさん)



タテのカギ

- 交互に盤上に石を置いていき、自分の石で囲んだ領域の広さを競うゲーム。
- 豊臣秀吉の朝鮮出兵「○○○○の役」と「慶長の役」。
- 「動」の反対。○○庄、○○態、○○止など。
- 『タテ1』で使う石の色の一つ。『タテ1』では後手の色。
- 自分で食事を作ること。
- 接近している、似ていること。○○ピン、○○ミスなど。
- 唐招提寺や春日大社、東大寺などがある市。
- トウモロコシや大麦麦芽などの発酵液に、ジュニパーベリー(ネズの実)の香りをつけた蒸留酒。
- 自分の意のままに振る舞えること。○○○意思、○○○研究、○○○の女神など。
- 人は関わる友達によって、善悪どちらにも感化されることを指すことわざ「○○に交われば赤くなる」。
- 歴史に関する事象の呼び方の一つ。「壬申の○○」や「応仁の○○」など。
- 日本では、小豆島などで栽培されている樹木で、実が食用油の原料になる。
- 歴史に関する事象の呼び方の一つ。「禁門の○○」や「本能寺の○○」など。

編集後記

◆命について考える機会をいただきました。職場の講演(授業)で、敦賀市の「たきざわ助産院産前産後の家」の助産師さんに来ていただきました。◆命の始まりである受精卵は、紙に針でチョンと刺したくらいの大きさでだということ。私たちは、三億分の一という奇跡的な確率で生まれてきたということ。生まれてくるまでも数々の困難を乗り越えてきたということ。生まれてこれたらずに途中で消えていく命もたくさんあるということ。などをお聞きしたり、実際の赤ちゃんと同じ重さの人形を抱っこしたり、本物のへその緒を見せてもらったりしました。どの子も、命のありがたさを噛みしめながら聞き入っている姿が印象的でした。◆小学校5年生の道徳の教科書に、小児がんのために4年生(11歳)で亡くなった女の子の「命」という詩がのっています。『命はとても大切だ／人間が

生きるための電池みたいだ／でも電池はいつか切れる／命もいつかはなくなる／電池はすぐにとりかえられるけど／命はそう簡単にはとりかえられない／何年も何年も／月日がたってやっと／神さまから与えられるものだ／命がないと人間は生きられない／でも／「命なんかいらぬ」と言っても／命をむだにする人もある／まだたくさん命がつかえるのに／そんな人を見ると悲しくなる／命は休むことなく働いているのに／だから 私は命が疲れたと言うまで／せいっぱい生きよう』◆12/7の人権のつどいに来ていただくウクライナの歌姫ナターシャ・グジーさんのアルバムに「命はいつも生きようとしている」という小椋佳さんとコラボしたのがあります。ナターシャさんの透き通った歌声とバンドウーラの響きを楽しみにしたいと思います。(西)

■ 応募方法 ■ (郵送、FAX、E-mailいずれかでお願いします)

●答え・住所・氏名を巻末の用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷市29-3 人権協事務局(生涯学習センターなびあす内)
※FAX(0770-32-1222)
E-mail(jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)



感想や
ご意見も
お願いします。

- べ切は、令和7年1月31日(金)です。(当日消印有効)
- 正解者の中から抽選で、図書カードをお送りします。
- 前号の人権クロスワードの正解は「ほほえみ」でした。たくさんのご応募、ありがとうございました。正解者は7名でした。

今回の当選者は 森井 祐介さん 武藤 実学さん
山口 則和さん 橋本 うた子さん 塚原 仁朗さん
以上の皆さんです。おめでとうございます！

人権クロスワードパズル

黄色のわくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



ヨコのカギ

- 「無花果」と書く果実。ジャムや甘露煮などに使われます。
- アルファベットで「英文法の動詞」や「パナジウムの元素記号」、「電圧の単位」に使われます。
- 国の面積は日本の約45倍。ブリヌイやボルシチ、ピロシキなどが有名。
- 『タテ1』で使う石の色の一つ。『タテ1』では先手の色。
- 1877年(明治10年)に熊本県や鹿児島県などで起こった武力反乱「○○○○戦争」。
- 京都の伝統工芸品である○○○○織。「綴」や「経錦」などの品種があります。
- 標準語に対して、ある地方で使われている言葉のこと。
- 提出された届けなどを受け取って処理をすること。
- 調味料の「さしすせそ」の「し」。塩化ナトリウムを主成分とします。
- 愛すること。または、大好きなもの、趣味など。

人権協シンボルマーク
ふれあい
いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。

美浜町人権尊重啓発協議会会報
第84号
発行：令和6年11月22日
(年3回発行)
編集：人権協広報部会
連絡先：美浜町生涯学習推進課
TEL 32-1212
FAX 32-1222
<https://mihama-jinkenkyo.jp/>
人権協HPが
できました！

↑こちらから
どうぞ

第4回町民人権講座

手話が生み出すバリアクラッシュ

【講師】oioi さん

一般社団法人手話エンターテインメント発信団oioi(オイオイ)の皆さんをお迎えして「手話が生み出すバリアクラッシュ」と題して講演とパフォーマンスが開催されました。

実は、このoioiの皆さんには、令和2年に越えただけ企画がありましたが、コロナ感染症の流行により、講演会は立ち消えとなっており、今回の講演を大変楽しみに待っていました。oioiの皆さんは、子どもから大人まで、障がいの有無に関係なく全国で活動を展開されています。

この活動では、手話コントなどのパフォーマンスや、ワークショップを通じて、きこえる人ときこえない人が、ともにお互いを知り、心を動かし、お互いの心にバリアを無くすことで、バリアの無い社会を創ることを目指しておられます。

今回の講演でも、ご自身の幼少期の経験や、その頃を感じておられたこととお話いただきました。その中には、手話を使うことをためらっていたことや、学校生活で意思疎通が十分できなかったご経験も話されました。

そんな中、大学生活で何気なくのぞいた手話サークルがきっかけで、手話のすばらしさを再認識され、手話を広めたいと仲間とともに現在の活動につながっておられるということでした。

耳が聞こえないことを詳しく説明される勇気ってすごいと思ったのですが、そのことが間違いであり、もっと日常の中で、もっと当たり前に障害というバリアをとっばらえるといいなと思います。

手話に対して持っていたイメージが変わりました。身近で体全体を使って表現するものだということがわかりました。

小さい子供(2才)も一緒に参加させていただいたのですが、真剣にお話を聞いて、拍手をしていました。終わった後は、「しゅわ」と言葉を口にしていって、小さいなりに感じたことがあったんだなとうれしく感じました。

私は敦賀市民ですが、今年の人権講座は3回目の参加です。聞こえない人の話とか、話ができない人と話すただけではないという新しい視点が新鮮でとても楽しかったです。簡単な手話も教えてもらえてよかったです。

美浜町では、令和5年度に「手と心をつなぐ手話言語条例」が制定されました。その条例の中では、「言語は、お互いの意思や気持ちを理解し合い、知識を蓄え、文化を創造する上で不可欠なものであり、人類の発展に大きく寄与してきた。手話は、音声言語である日本語と異なる言語であり、手指や体の動き、表情を使って視覚的に表現する言語である。」と書かれています。

「手指や体の動き、表情を使って視覚的に表現する言語」

まさに、この講演会でも、パフォーマーのお二人からの、「手話は指先だけの動きではなく、相手の顔を見て、表情たっぷりに表現してくださいね」との言葉に、最初は恥ずかし気に手話を使っていた来場者もどんどん引き込まれていました。手や顔、体を使って手話を楽しみ、ともに笑い合い、会場が一体となった講演会となりました。

このような機会を通して、お一人でも多くの方が手話や障がいへのバリアを打ち砕き、お互いを理解し合える手話が広がっていくと良いなあと、笑顔で会場を後にされる来場者のお見送りをしながら改めて感じていました。

第3回町民人権講座

映画「マイスモールランド」

8/3
SAT

第3回町民人権講座として、映画「マイスモールランド」が上映され、「午前の部」「午後の部」合わせて、約100名が来場されました。

物語の主人公は、埼玉県に住む17歳のクルド人サーリヤ。サーリヤは幼い頃に故郷クルドの地を追われ、家族で日本に逃れてきており、父マズルム・妹アーリン・弟ロビンの4人で暮らしていました。小学生の頃はいじめにあいながらも、高校生となった現在は、彼女の努力で同世代の日本人と変わらないごく普通の生活を送れるようになりました。また、進学のために内緒ではじめたバイト先では、東京の高校に通う聡太と出会い、初めて自分の生い立ちを話すことができるほどに打ち解けた深い関係を築いていました。

しかし、突然、在留資格を失ったことから、サーリヤを囲む状況が一変、当たり前の生活が奪われてしまいます。在留資格を失ったことで就労が認められず、埼玉県外への外出もできなくなってしまいました。父マズルムは不法労働の罪を問われ、出入国管理施設に収容されてしまいます。そして、サーリヤ自身も、バイトをクビになり、東京に住む聡太に会うことさえも困難になりました。またその影響はサーリヤの進学にも影響、さらに今の生活を続けていくことも厳しくなり、彼女は追い込まれていってしまいます。

聡太や聡太の母、サーリヤ家族のために奮闘する弁護士山中などに支えられながらも、今ある現状に何とか光を見出そうとする、そんな彼女の奮闘や苦悩の姿をこの映画は描き出していました。

彼女が日本に居たいと願うことは「罪」なのだろうか、今も世界で起こっている難民問題、また、難民の人々が置かれた厳しい状況について、改めて考えさせられたそんな映画でした。

在留資格カードを目の前で破棄されたシーンはあまりにもつらかった。そうさせているのは私たち、日本国籍者が作った法律。この映画では悪人はおらず、サーリヤたちの周りの人々も“普通に良い人”。それでも彼女たちの居場所を日本は奪った。差別は優しさや思いやりだけでは解決しない構造の問題。日本国籍者（マジョリティ）こそが解決しなければいけない問題である。

2回目の講演は都合で来られませんでした。このシリーズは人権のテーマが多岐にわたり、また気軽に来られるよう配慮されていてとても良いと思います。無料だったり、予約不要だったり、「気軽」に来られるのって大事だなと思います。今回の映画も難民の方の実情が少しでもわかることができたと思います。自分からは見に行くことのないテーマなので、取り上げてもらってよかったです。

今何もできないけれど、知ること、これからできることがあると思います。ありがとうございました。

12月4日から10日までは「人権週間」です

美浜町人権尊重啓発協議会では、人権週間にあわせて様々な人権啓発活動を行います。

人権作品入賞作品展示 (なびあす)

ふれあいの「短い手紙」「絵・ポスター」「写真」の入賞作品展示

【期間】2024年12月4日(水)～12月10日(火)
17:00まで

人権共同作品コーナー (なびあす)

【期間】2024年12月4日(水)～12月10日(火)
17:00まで

人権図書紹介コーナー (美浜町立図書館)

広く人権に関わる書籍をまとめたコーナーを設置します。

【期間】12月3日(火)～12月中旬まで

人権のつどい2024

「ナターシャ・グジーコンサート」

【日時】2024年12月7日(土) 14:00～15:30

【場所】美浜町生涯学習センターなびあす

【入場】入場無料(全席自由)
・入場整理券が必要です

町内人権啓発巡回
チャコペーコ

町内の企業や事業所、保育園等を巡回し、啓発活動を行います。

【日時】2024年12月5日(木)
9:00～12:00頃



人権協部会紹介 その5

人権のつどい部会

「人権のつどい部会」というと、何やら難しそうな名称だが、毎年12月の人権週間にあわせて開催するコンサート等の企画・運営を行う部会で、現在13人のメンバーが所属している。

「人権のつどい」のはじまりは平成8年のアムジー室内合奏団コンサート。私は聴衆として客席にいたのだが、世界の美しい音楽を通して差別のない世界を考えるといった印象深い内容だった。以来、音楽やダンス、朗読、演劇等、多彩なつどい事業に参加するうちに、部会に加えていただくこととなり、今に至っている。

さて、部会では、出演者のオファーから始まり、イベントのPR、当日の運営など、約1年かけて準備を整える。その過程で少しずつ伝えたいメッセージがカタチとなっていく。

「ライブは演奏者と観客とのセッションだ」と、むかしジャズ好きの友人が言っていた。観客として演奏を楽しむのはもちろんだが、拍手や歓声をもって演奏者を盛り上げることが大事。楽しいライブはみんなでつくり上げるものだそうだ。「人権のつどい」も同じかもしれない。出演者やご来場いただいたみなさん、舞台スタッフ、チラシを置いてくださった

お店の方など、たくさんのお会いと、思いがつながって、わくわくしたり、感動したり、心地よい時間が生まれる。そして、そういう〈場〉に立ち会えることが、つどい部会メンバーとしての喜びなのだと思う。

間もなく「人権のつどい2024」が開催される。出演はウクライナ出身の歌姫ナターシャ・グジーさん。バンドウーラという民族楽器を手に歌う彼女に3年前からオファーし続け、ようやくこの度実現となる。今回も、みなさんの心に届く出会いがあればいいなと願っている。



2016 伊藤花りんさん



2010 古謝美佐子さん



2015 宇崎竜童さん



2014 川嶋あいさん



2023 米良美一さん

2021 小室等さん、坂田明さん、林英哲さん

人権コラム

ケツメイシから学んだこと

「執筆」野原

啓

皆さんはケツメイシというアーティストをご存じでしょうか。ケツメイシは日本の4人組アーティストで「サクラ」等の代表曲があるのでご存じの方も多いかも知れません。今回は、ケツメイシの曲の中から私の心に響いた曲を何曲か紹介させて頂こうと思います。

1曲目は、「小さな幸せ」という曲です。この曲の歌詞に小さな幸せは目には見えないものだから、小さな幸せはきっと大きな幸せだという歌詞があります。綺麗な景色を見ることができた、大会で1番になった等、目に見えることだけが幸せではなく、日々の何気ない暮らしの中にたくさんの小さな幸せがあってその小さな幸せは、当たり前でなく大きな幸せで日々大きな幸せのなかで暮らしているということに気づきました。日々の暮らしに感謝して過ごしていきたいと思っています。

2曲目は、「出合いは成長の種」という曲です。この曲に、君と出合い、あなたと出合い、君に学び、あなたに学びを、僕は、君から、あなたから、貰って、育って、今の僕がいるという歌詞があります。

自分はまだ30年の人生ですが、思い返すと、いろいろな人から、多くのものをもらい、学んで、今の自分があると思います。正直いままでの出会いがすべて思い描いてきたような出会いではなくたですが、これまでの人生、これからの人生で出会う人が自分を変



え、次会うまでにその人が自分を成長させてくれると思います。

最後に紹介させて頂く曲は「ライズビユーティフル」という曲です。

この曲に、顔で笑って心では泣いて「楽しく生きる」どころでは無いって？心配すんじゃねえ今はちよつと運がねえただだから皆同じもう少し踏ん張れ、君が倒れりや肩も貸すし、もう歩けないなら足にもなるし、困ったならば手を借り時には手を貸すそうやって人は「人生」という絵を書くという歌詞があります。

みんながこの気持ちでいれば争いごと何も起こらないと思います。そしてこの歌詞の気持ちは全てにながっていると思います。普段の仕事、家庭、友達、困っているなら手を借り、時には手を貸すそれだけでみんな幸せだと思っています。

顔は笑っているけど、心では泣いている人には、なかなか気づくことはできないと思います。少しいつもと違うと思ったら声をかけてあげただけで心も笑顔になると思います。ケツメイシの歌は、子供のころ何気なく聞いていましたが、人生で大切なことがたくさん詰まっているということに気が付きました。ここに紹介させて頂いた以外にもたくさん素敵な曲がありますので、皆さんもよかったらケツメイシの曲を聴いてみてください。